

山下ふみこ チャレンジ通信 NO.15



INDEX

- 1. 議会報告
駅周辺総合整備基金のからくり
- 2. 一般質問
子ども子育て支援制度
- 3. 人口流出全国ワースト6番
- 4. 地域リーダー育成講座の卒業
- 5. 中華の萬楽さん閉店
- 6. ステキなひととき
- 7. 娘の結婚式
- 8. 香貫山影奉仕のゴミ拾い
- 9. 市政報告会のお知らせ

(発行)
山下ふみこ後援会
『ふみこステキな仲間たち』
〒410-0022 沼津市大岡1556-2
Tel 055-962-2509/Fax 055-951-4855

議会報告 底をつく駅周辺総合整備基金、とうとう現金4億円に！

鉄道高架事業のための基金は額面通りに存在しない。

貯金があるから高架化は税金を上げずにやることができると市長は言ってきました。しかしその貯金（駅周辺総合整備基金）は、貸付金が大半を占め、土地を取得するために使い果たし、現金が底をついているのが実情です。

今回、平成2年に取得した不二家跡地の一部（当時：坪189万円）を5億円で特別会計から一般会計が買い戻し、その土地を414号線の拡幅事業の為に売却予定です。今の路線価で換算すると1億円（路線価：坪40万円）にしかなりません。（1/5の価値に目減り）残りの4億円は税金で補ってんして、基金に返済するしかありません。

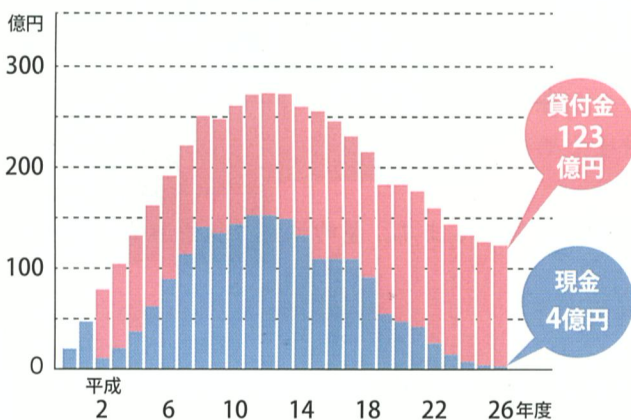
26年度末・基金残高見込み127億円 内訳は貸付金123億円+現金4億円

市は貸し付けたお金が戻ってくるので、高架化は大丈夫と言いますが、目減りした分は税金で補ってんします。広報沼津でもお知らせをしている今ある基金は、帳簿上の金額であり現金としてあるわけではありません。



26年度一般会計予算委員会

整備基金の年度末残高の推移



高架事業がいかに曖昧な財源の上に成り立っているか！

市長はこの実態を市民にどのように説明をし、高架化推進の理解を求めていくのでしょうか。基金があるから大丈夫というのは、市民に対して説明責任を果たしていません。

市税収入が今後増加する可能性は、高齢化や人口減少で納税者が減り続けている状況では難しいです。今後やるべき事業を削減しなければお金の工面はできません。高架化をするには、今よりもっと市民サービスを低下しなければならず、今後、相当な負担を市民へ強いるものであるということから一般会計予算に反対をしました。

子ども子育て支援新制度が2015年4月スタート！



来年度、子ども・子育て支援の制度が大きく変わります。新制度の実施主体の市町は2014年の夏ごろまでには、様々な基準や保育料を条例で定め、住民に周知しなければなりません。この制度は、認定子ども園、幼稚園、保育園に通う子どもだけではなく、全ての家庭を対象に地域の実情に応じて子育て支援の充実を図っていますが、

肝心の国の方針は未だ検討中です。こんな状況で本当に子どものための制度の準備ができるのでしょうか。全ての子どもが等しく保育を受ける権利を保障する観点から現状の課題と改善を求めて質問しました。

●病児病後児保育について

質問：働く母親にとって、子どもが病気になった時に預ける事が出来る病児保育施設は必要です。現在、沼津市に病児保育施設は無いが、この事業についてどのように考えているのか？

答弁：病児保育事業は、必要な事業量を盛り込み、実施に向けて取り組む。

病児・病後児保育事業の実施箇所数(2014年)

	病児	病後児
沼津市	0	2
三島市	2	1
裾野市	0	1
富士市	1	3

●放課後児童クラブの利用について

質問：利用者は小学1～3年生までだが、他市に比べ少ない。これは潜在的なニーズがあるにもかかわらず、入りたくても入れない状況にあるのではないかと？平成27年度からは小学6年生まで対象を拡大予定だが、教室の対応はどうするのか？

答弁：必要な受入の拡大を行っていく。児童クラブの設置は可能な限り学校内に設置し、空き教室を活用する。

放課後児童クラブ利用者数(2013年1月)

	利用者数	待機児童	設置数
沼津市	838人	21人	29
三島市	694人	0人	17
裾野市	340人	0人	10
富士市	1,756人	1人	42

●保育所待機児童について

質問：児童数は減少しているが、保育所のニーズは高まっている。国の基準では待機児童はいないと言うが、実際には希望の保育園に入所できない待機児童がいる実態については？

答弁：児童福祉法に基づき、適正に保育を実施していく。

保育所待機児童数(2014年2月)

	国基準	入所待ち
沼津市	0人	128人
三島市	12人	131人
裾野市	7人	53人
富士市	9人	76人

まとめ

国は消費税引き上げによる増収分の中で、子ども・子育て支援の財政を強化します。量的拡充や質的向上を図っていくには当然市町の負担も今より大きくなります。

利用者ニーズを満たすための基盤整備や職員の処遇向上を図るにも、そのための財源確保がされなければ、利用者負担はもっと大きくなります。

その負担額は各自治体が設定するので、各市町の地域格差が生じれば、子育て世代の流出につながることもあります。新制度に対応した市の責任と財源の確保を前提に、その環境整備の取り組みは待ったなしなのです。

人口転出超過が全国で6番目！

沼津市は平成25年の人口移動状況において、全国1,719市町村のうちで6番目に人口転出数が多いという結果となりました。24年度も7番目であり、県内では断トツにワースト1でした。

少子高齢化と人口減少の状況は、医療・介護など社会保障費の増大と税収減を招き財政を圧迫する大きな要因です。

なかでも特に気になるのは、2012年以降に20～30代を中心とした子育て世代の流出が大きいのではないかとされている点です。

気候温暖でこんなに住みよいまちに、いったい何が起きているのか！

いくら津波の被害が予想されるとはいえ、この原因だけではないはず。今までの市の政策・施策・災害等に対する対応について問題はなかったでしょうか。

今に始まったことではないと高をくくるのか、この状況を緊急事態ととらえるのか、今まさに市の姿勢が問われています。



県内の年齢別人口移動状況推移

年齢	2011年	2012年	2013年
0-4	105	102	101
5-9	236	184	114
10-14	209	260	189
15-19	194	170	165
20-24	168	140	134
25-29	201	171	134
30-34	78	32	48
35-39	12	88	104
40-44	25	94	119
45-49	201	38	80
50-54	168	20	89
55-59	84	134	99
60-64	166	178	176
65-69	151	147	99
70-74	49	89	61
75-79	23	68	76
80-84	20	70	36
85-89	4	63	16
90+	1	16	24
計	2804	2024	1892

注：流出超過が特に激しくなっている年代は、20～30代、40～49代、50～59代、60～69代、70～79代、80～89代、90代以上

12年以降雇用悪化影響か 県外流出急増

未来の風・代表質問の一部を抜粋

質問： 人口減少・高齢化に対する認識と打開策は？

市長： 最大の課題だが、魔法の杖はない。沼津の魅力を発信し、様々な取り組みを進め課題克服に努める。

質問： 借金を増やさず、事業を絞り込んで抑制を図るべきではないか？

市長： 国の制度をうまく利用し、借金をしていくのは経営手腕と理解している。

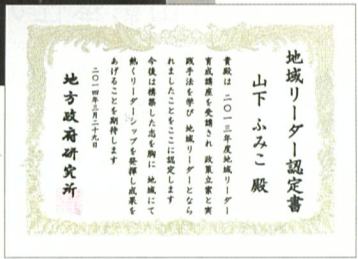
この問題は市の存続に係るといって危機感を持って、問題分析を早急にし、全庁挙げて問題解決に向かうべきです。魔法の杖があるとは誰も思っていないし、本当にことは深刻です。

借金の質が問題で、その年度の生活費が足りないために借金をしている状況はサラ金地獄と同じで、経営手腕なんてとんでもないこと。こういう借金を重ねること自体が健全な財政運営ではないのです。

地域リーダー育成講座を修了しました！



研究所代表 早稲田大学大学院 北川正恭教授と



昨年5月からの一年間、早稲田大学マニフェスト研究所で、「まちづくりや地域リーダーとしてのあり方」を各地方の事例等を踏まえて、北は北海道、南は九州からの全国から集まった議員と経営者10人と共に研修をしてきました。

議員はある意味、孤独であり、その悩みや苦悩は同じ立場で活動をしている者にしか分からないこともあり、お互いが理解し合え、また他の自治体の様子を知り得たことはとても貴重な経験でした。

地方分権が進み、自治体の役割がますます大きくなっていけば、今までの役所体制では立ち行かなくなっていってしまう。だからこそ内部にばかりとらわれずに、他市町の状況や情報交換を常にしていく環境を自らに課していかないと、ますます井の中の蛙になってしまいます。

まちが生き延びていくにはどうしたらいいのか、この研修で学んだことを胸に、地域でその成果をあげていきたいと思っています。

ぬまづまちピカ応援隊スタート

一般質問の成果!!

昨年の6月議会で市民の自主的な清掃活動に「アダプトプログラム制度の導入」を一般質問し、この4月からこの制度を導入した「ぬまづまちピカ応援隊制度」がスタート。

美化活動に必要な用具の支給や保険加入などを支援してもらえます。

まちピカ応援隊を募集

沼津市は、市の公衆衛生を向上させ、市民の生活環境を美化し、市民の健康増進を図るため、市民の自主的な清掃活動に「アダプトプログラム制度」を導入し、この4月からこの制度を導入した「ぬまづまちピカ応援隊制度」がスタート。

公共施設で美化活動

要な清掃用具の支給や、損害賠償、傷害保険加入の手続きなどを支援する。

市内住、在勤者、主たる構成員は20歳以上、2人以上の団体（代表者は20歳以上）が対象。市が管理する公園や緑地、遊歩道、児童遊園などの公共施設で実施。

嫁ぐ娘にママから



中学3年生の時にオリンピックスイマーの夢を追いかけてメルボルンに留学をし、建築家になった娘。そして人生最愛の伴侶と共に将来に向けてまた飛び立とうとする我が子に、親の想いは複雑です。

結婚式には国内はもとより海外からも多くの友人が駆けつけてくれました。私は初めて娘が向こうで多くの良き友人たちに恵まれ、支えられてきたことを実感しました。

「真麻、本当によく頑張ったわね。今度は二人で幸せに」と心から祝福をしようと思います。

市政相談 受付中

お気軽にお声かけください！
市政についてのご質問やご相談をいつでもお受けいたします

山下ふみこ事務所
〒410-0022 沼津市大岡1556-2
■ Tel : 055-962-2509・携帯 : 090-7313-6092
■ Fax : 055-951-4855
■ Email : fumiko2008@gmail.com
ホームページもご覧ください！ <http://yamashita.fm>

「山下ふみこの市政報告会」

テーマ：沼津市の現状と将来について

【日時】平成26年6月29日(日)
10:00~11:30

【場所】健康福祉プラザ「サンウェル沼津」
2階大会議室（日の出町）

【お問い合わせ】 山下ふみこ事務所へ

みなさまのご参加をお待ちしています。

萬楽さん、ありがとう



山王台で47年余りご夫婦で続けてこられた「中華の萬楽」さん。いつもどんな時でも変わらぬ笑顔で迎えて下さり、本当に心温まる処でした。

ご主人の大木さんが28歳のときに沼津軒から独立して、妻・光枝さんと二人三脚で続けてきたお店が3月末で閉店。最後は名残惜しむ多くの客様で店内は連日超満員でした。本当に長い間お疲れさまでした。でも寂しいです。

ステキなひととき



最近の出会いの中で、心に残るお話を聞きました。その方の名前は澄子さん。私の父が植松動物病院をしていた頃、その方のご主人も獣医でした。

彼女は電車に乗る時、隣の席の方に、「ご一緒させて下さい」と声をかけるそうです。彼女は私に「ある日、いつものように隣席の70代の男性に声をかけると、その方は何と答えたと思います？ 私はこの世に生れて初めてかけられた言葉“光栄です”と仰るの。さらに、駅で降りる際、“お御足がご不自由なようですね。お気をつけて”と声をかけて頂いたの」

さらに続けて「美しい言葉を日々心がけているわ。足は不自由になっても、言葉は自分から発していけるでしょう。」そして最後に、「沼津に本当のジェントルマンがいたのねえ」と楽しそうにお話をして下さいました。

第56回 香貫山影奉仕のゴミ拾い活動

どなたでも参加自由です！

【開催日】6月21日(土)・7月19日(土) ※雨天中止

【時間】10:00~11:30

【場所】香貫山香陵台(茶店前)

【お問い合わせ】 055-962-2509 (山下)